

各関係機関団体の長 }
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和5年度病虫害発生予察特殊報第2号について

このことについて、下記のとおり発表したので送付します。

特殊報第2号

1. 害虫名 スモミハバチ

学名: *Monocellicampa pruni* Wei

2. 発生作物 スモモ

3. 発生の経過と概要

令和3年6月に県北部のスモモ生産地において果実に微小な穴が開き、内部を食害している幼虫が確認された(写真1、2、3)。このため翌年晩冬から発生ほ場を調査し、令和5年3月中旬に微小なハチ類の成虫が採取された。これを門司植物防疫所に同定依頼した結果、スモミハバチと同定された。

4. 国内での発生状況

山口県、広島県、大分県で発生が確認されている。

5. 発生生態と被害

(1) 発生生態

成虫の体長は5～6mmで体色は黒色(写真4)、翅は暗色。雌では触角と脚が暗褐色～黒色だが、雄では黄褐色である。年1化性で、スモモの開花初期に地中から羽化し、花器の萼(がく)に産卵する。ふ化幼虫は果実に食入し、微小な侵入痕を残す(写真2)。食入された果実の多くは肥大が遅れ、後に落果する。落果が目立つのは4～5月である。幼虫は5月上中旬に果実を脱出し、土中で土繭を作って蛹化し、春を待つ。

(2) 被害

寄生によって多くの果実が小さいまま肥大せず、そのほとんどが6月上旬までに落果する。このため春先に開花量が十分なほ場でも収量が年々減少していく。開花時期に防除が行われない場合、被害は年々拡大し、最終的には収穫皆無となる。

6. 防除対策

(1) スモモの開花終了後、直ちにスモミハバチに登録のある薬剤で防除を行う。



写真1 幼虫が食入した果実（断面）



写真2 微小な侵入孔のある果実



写真3 3齢幼虫の顕微鏡像（体長3～4mm）



写真4 雌成虫（体長5～6mm）
（山口県病害虫防除所より）

病害虫防除所のホームページでは、各種病害虫の発生状況を随時更新しています。

発生状況の把握や防除の参考にご活用下さい。

○福岡県病害虫防除所のホームページへのアクセス

URL: <https://www.jppn.ne.jp/fukuoka/> または右QRコード①



○Twitter（ツイッター）で定期情報や警報等発出のお知らせを始めました。

Twitterの本アカウント（福岡県農作物病害虫情報）へのアクセス

URL: https://twitter.com/PPDPO_Fukuoka または右QRコード

